

大津市でイチジク栽培研修会を開催

大津・南部農産普及課では3月12日、大津市森で新規にイチジク栽培に取り組もうとする農家等を対象に栽培研修会を開催しました。当日の出席者は農家8戸(12名)、関係機関4名の計16名でした。

イチジクは地元の市場からも要望が高い品目で、ニーズはあるものの当管内ではまだまだ生産量が需要にこたえられていない状況です。イチジクは、栽培が比較的容易なうえ、挿し木で増殖出来るため生産拡大がしやすい品目です。今回の研修会では、これまでの普及活動の中で把握していたイチジク栽培に興味がある農家に挿し木や管理方法について説明するとともに剪定枝を配布しました。

研修会ではイチジクの剪定枝を穂木に調製する方法や、挿し木してから定植までの管理方法、昨年多く発生したアザミウマやイチジクヒトリモドキ等の病虫害対策などを説明しました。その後、新規栽培者を中心に挿し木の調製作業を実際に体験していただきました。新規栽培者からは多くの質問があり、関心の高さが伺えました。

今回の研修参加者の挿し木本数は約500本(ハウス350㎡、露地1,000㎡予定)になります。地場産果実の生産拡大に向け、今後も関係機関と連携し、定植、誘引等今後の栽培管理が適切に実施出来るよう支援していきます。



研修会のようす